

市政記者クラブ 様

令和6年11月8日（金）
健康福祉局健康部感染症対策課
（結核以外）近藤、山口 電話：972-2631
（結核）竹田、増田 電話：972-2633

名古屋市感染症発生動向調査（令和6年10月分患者発生状況）について

本市では、「感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律」に基づき、感染症発生動向調査を実施しています。

感染症発生動向調査とは、感染症のまん延防止を図るため、感染症に関する情報の収集、分析及び提供等を行う事業であり、その一環として、毎月、感染症発生件数等について情報提供を行っています。

1 10月の感染症発生状況（報告のあった疾病のみを記載）

（診断日で集計）

疾 病 名	令和6年10月	令和5年10月
◆一類感染症 （発生なし）	0件	0件
◆二類感染症 ・結核	21件	34件
◆三類感染症 ・腸管出血性大腸菌感染症	11件	2件
◆四類感染症 ・A型肝炎 ・ジカウイルス感染症 ・日本紅斑熱 ・レジオネラ症	1件 1件 1件 9件	0件 0件 1件 4件
◆五類感染症（全数把握疾病） ・アメーバ赤痢 ・カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症 ・急性脳炎※ ・劇症型溶血性レンサ球菌 ・後天性免疫不全症候群（HIV感染症を含む） ・侵襲性インフルエンザ菌感染症 ・侵襲性肺炎球菌感染症 ・梅毒 ・百日咳	4件 7件 1件 3件 3件 2件 4件 49件 6件	1件 4件 4件 2件 4件 0件 7件 34件 2件
◆五類感染症（定点把握疾病：第40週～第44週（9月30日～11月3日分）） ・報告数の多い疾病は、①手足口病（1,223件：前月比0.70倍）、②新型コロナウイルス感染症（804件：前月比0.63倍）、③感染性胃腸炎（526件：前月比1.48倍）の順となっています。		

※ ウエストナイル脳炎、西部ウマ脳炎、ダニ媒介脳炎、東部ウマ脳炎、日本脳炎、バネズエラウマ脳炎及びリフトバレー熱を除く。

2 トピックス

《マイコプラズマ肺炎 ～患者報告数が増加しています～》

マイコプラズマ肺炎は、「肺炎マイコプラズマ」という細菌に感染することによって起こる呼吸器感染症で、小児や若い人の肺炎の原因として、比較的多いものの一つです。マイコプラズマ肺炎は1年を通じてみられますが、特に秋冬に増加する傾向があり、患者の咳のしぶきを吸い込んだり、患者と身近で接触したりすることにより感染するとされています。

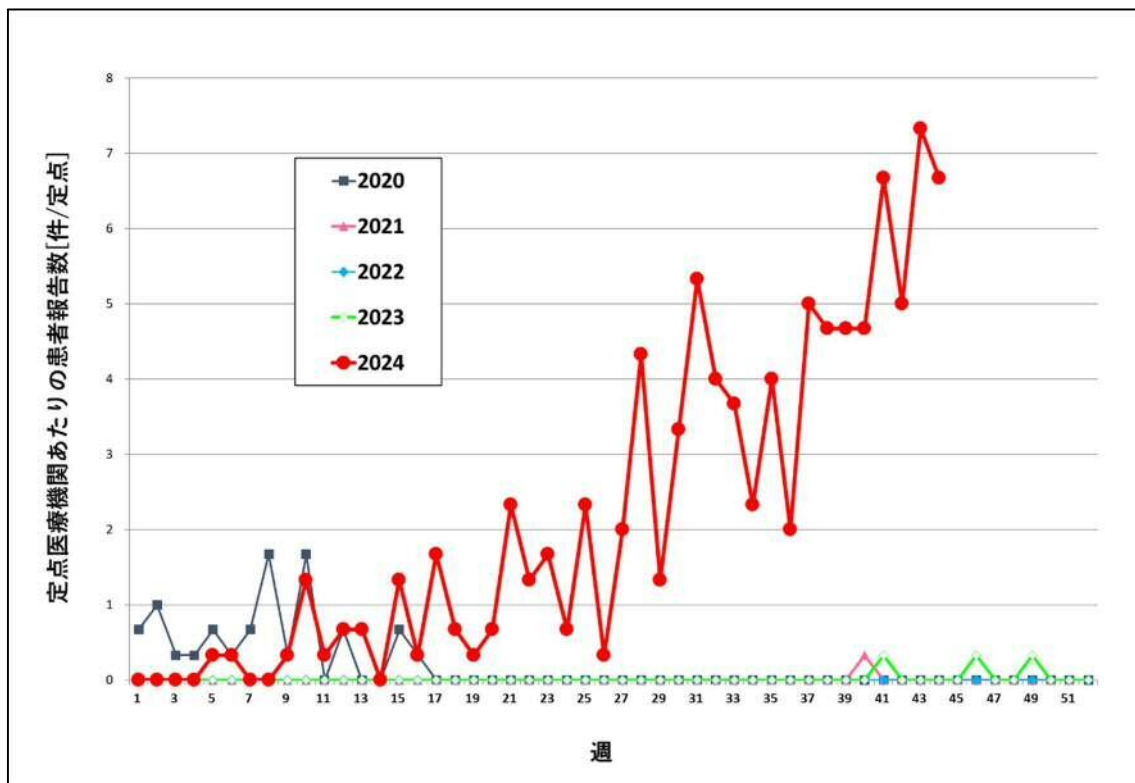
感染してから発症するまでの潜伏期間は長く、2～3週間くらいとされています。感染すると、発熱や全身倦怠感（だるさ）、頭痛、痰を伴わない咳などの症状がみられますが、咳は少し遅れて始まることもあります。咳は熱が下がった後も長期にわたって（3～4週間）続くのが特徴です。肺炎マイコプラズマに感染した人の多くは気管支炎で済み、軽い症状が続きますが、一部の人は肺炎となったり、重症化することもあります。

感染予防のため、普段から流水と石けんによる手洗いをするのが大切です。感染した場合は、家族間でもタオルの共用は避けましょう。また、患者の咳から感染しますので、咳の症状がある場合には、マスクを着用するなど咳エチケットを守ることが心がけましょう。

～『咳エチケット』とは～

- ◎咳・くしゃみが出る時は、他の人にうつさないためにマスクを着用しましょう。マスクを持っていない場合は、ティッシュや腕の内側などで口と鼻を覆い、周りの人から顔をそむけましょう。
- ◎鼻汁・痰などを含んだティッシュはすぐにフタ付きのゴミ箱に捨て、手のひらで咳やくしゃみを受け止めた時はすぐに手を洗いましょう。
- ◎症状のある人はマスクを正しく着用し、周囲への感染防止に努めましょう。

（参考）本市の定点医療機関あたりのマイコプラズマ肺炎患者報告数の推移



3 病原体分離情報（令和6年10月検査分）

1. 発症日不明、令和6年9月2日に市内医療機関を受診し、肺炎と診断された、千種区在住、4歳、男児の検体（咽頭拭い液）から、発熱・頭痛・倦怠感、解熱後も続く咳（1か月程度）などの症状がみられ、多くは気管支炎を起こし、肺炎等重症化することが知られている肺炎マイコプラズマ（*Mycoplasma pneumoniae*）を遺伝子検査法により検出・同定しました。
2. 令和6年9月16日発症、令和6年9月17日に市内医療機関を受診し、無菌性髄膜炎と診断された、守山区在住、6歳、男児の検体（咽頭拭い液）から、急性上・下気道感染症を起こすことが知られているヒトアデノウイルス1型（Adv-1）を、また上気道炎や胃腸炎を起こすことが知られており、髄膜炎との関連もあるエコーウイルス11型（Echo-11）を、さらに多くは気管支炎を起こし、肺炎等重症化することが知られている肺炎マイコプラズマ（*Mycoplasma pneumoniae*）を遺伝子検査法により検出・同定しました。
3. 令和6年9月13日発症、令和6年9月14日に市内医療機関を受診し、マイコプラズマ脳炎と診断された、西区在住、12歳、男児の検体（咽頭拭い液）から、小児の突発性発疹の原因病原体であり、まれに脳症や劇症型肝炎の報告があるヒトヘルペスウイルス7型（HHV-7）を遺伝子検査法により検出・同定しました。
4. 令和6年10月5日発症、令和6年10月6日に市内医療機関を受診し、気管支炎（初発喘息発作）と診断された、千種区在住、4歳、男児の検体（咽頭拭い液）から、咳嗽や喘鳴を引き起こし、急性弛緩性麻痺（AFP）との関連性も報告されているエンテロウイルスD68型（EV-D68）を遺伝子検査法により検出・同定しました。
5. 令和6年10月6日発症、令和6年10月6日に市内医療機関を受診し、無菌性髄膜炎（急性脳炎）と診断された、天白区在住、2歳、女児の検体（咽頭拭い液、髄液）から、上気道炎や胃腸炎を起こすことが知られており、髄膜炎との関連もあるエコーウイルス11型（Echo-11）を遺伝子検査法により検出・同定しました。
6. 令和6年10月4日発症、令和6年10月6日に市内医療機関を受診し、肺炎と診断された、天白区在住、0歳0か月、男児の検体（咽頭拭い液、髄液、便）から、上気道炎や胃腸炎を起こすことが知られており、髄膜炎との関連もあるエコーウイルス11型（Echo-11）を遺伝子検査法により検出・同定しました。
7. 令和6年10月5日発症、令和6年10月7日に市内医療機関を受診し、上気道炎と診断された、天白区在住、0歳1か月、男児の検体（咽頭拭い液、髄液、便）から、呼吸器症状、発疹症に始まり心筋炎、無菌性髄膜炎などを起こすことが知られているコクサッキーウイルスB群3型（Cox. B3）を、さらに検体（便）から、夏風邪や発疹症の原因となるヒトパレコウイルス1型（HPeV1）遺伝子検査法により検出・同定しました。

8. 令和6年10月8日発症、令和6年10月10日に市内医療機関を受診し、手足口病と診断された、東区在住、2歳、男児の検体（咽頭拭い液）から、夏かぜや、発疹症、手足口病の原因となるコクサッキーウイルス A 群 16 型 (Cox. A16)を、また急性上・下気道感染症を起こすことが知られているヒトアデノウイルス 1 型 (Adv-1)を遺伝子検査法により検出・同定しました。
9. 令和6年10月12日発症、令和6年10月15日に市内医療機関を受診し、手足口病と診断された、東区在住、1歳、男児の検体（咽頭拭い液）から、夏かぜや、発疹症、手足口病、さらには無菌性髄膜炎を引き起こすことが知られているエンテロウイルス A71 型 (EV-A71)を遺伝子検査法により検出・同定しました。
10. 令和6年10月6日発症、令和6年10月10日に市内医療機関を受診し、肺炎と診断された、天白区在住、2歳、女児の検体（咽頭拭い液）から、上気道炎や胃腸炎を起こすことが知られており、髄膜炎との関連もあるエコーウイルス 11 型 (Echo-11)を、さらに同一検体から、小児の突発性発疹の原因病原体であり、まれに脳症や劇症型肝炎の報告があるヒトヘルペスウイルス 7 型 (HHV-7)を遺伝子検査法により検出・同定しました。

病原体の検出、分離・同定については、名古屋市衛生研究所微生物部で実施しています。

名古屋市感染症発生動向調査情報（週報）

令和6年 第40週～第44週（9月30日～11月3日）

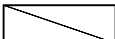
	小児科・インフルエンザ/COVID-19定点報告 (70医療機関)												眼科定点報告 (11医療機関)		基幹定点報告 (3医療機関)							合 計
	インフルエンザ （インフルエンザ及び ンザ等感染症を除く）	新型コロナウイルス 感染症※	RSウイルス感染症	咽頭結膜熱	A群溶血性レンサ球菌 咽頭炎	感染性胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性紅斑	突発性発しん	ヘルパンギーナ	流行性耳下腺炎	急性出血性結膜炎	流行性角結膜炎	細菌性髄膜炎 （インフルエンザ菌、髄膜炎菌、肺炎球菌を 原因として同定された場合を除く）	無菌性髄膜炎	マイコプラズマ肺炎	クラミジア肺炎 （オウム病を除く）	感染性胃腸炎 （病原体がロタウイルスであるものに 限る）	インフルエンザによる入院患者	新型コロナウイルス 感染症※による入院患者	
千種	16	37	8	1	39	54	0	146	0	8	2	0	0	5								316
東	25	30	1	2	19	7	0	65	0	1	0	1										151
北	15	42	0	1	13	31	2	37	0	2	1	0	0	8	0	0	10	0	0	0	8	170
西	22	31	16	12	50	15	6	182	0	13	7	2	0	8								364
中村	13	59	3	1	11	44	0	13	0	0	0	0	0	0								144
中	12	40	0	0	45	32	4	72	0	7	1	1										214
昭和	10	88	0	0	10	35	0	12	0	0	1	0	0	0	0	1	26	0	0	1	15	199
瑞穂	4	41	0	0	1	0	0	4	0	0	0	0	0	2								52
熱田	5	31	0	0	0	0	0	8	0	0	0	1	0	1								46
中川	19	95	4	5	18	35	1	98	1	3	4	2			0	0	55	0	0	0	21	361
港	11	42	0	0	15	28	0	7	0	1	0	0										104
南	25	80	7	4	26	16	0	11	0	3	1	1	0	0								174
守山	10	55	2	2	23	51	3	189	5	3	0	2										345
緑	37	70	3	0	17	88	1	181	0	1	0	2	0	0								400
名東	19	35	1	9	48	49	2	170	1	6	1	0	0	0								341
天白	9	28	0	2	3	41	0	28	2	2	0	0	0	0								115
合計	252	804	45	39	338	526	19	1,223	9	50	18	12	0	24	0	1	91	0	0	1	44	3,496
前月	192	1,271	50	49	281	355	19	1,752	7	43	39	4	0	3	1	0	49	0	0	1	53	4,169
前月比	1.31	0.63	0.90	0.80	1.20	1.48	1.00	0.70	1.29	1.16	0.46	3.00	-	8.00	0.00	-	1.86	-	-	1.00	0.83	0.84
昨年同月	2,950	1,227	9	413	450	493	14	73	5	23	12	15	1	18	2	1	1	0	0	7	56	5,770

※病原体がベータコロナウイルス属のコロナウイルス（令和2年1月に中華人民共和国から世界保健機関に対して、人に伝染する能力を有することが新たに報告されたものに限る。）であるものに限る。

注  は、報告する医療機関がないことを表す。

名古屋市感染症発生動向調査情報（月報） 令和6年 10月

	性感染症定点報告 (15医療機関)				基幹定点報告 (3医療機関)			合 計
	性感器 染症 クラミジア	ウ性 イ器 ルヘル ス感 染症	尖 圭 コン ジ ロー マ	淋 菌 感 染 症	感黄メ 染色チ 症ブシ ドリン 球耐 菌性	肺ペ 炎ニ 球シ 菌リン 感 染症 耐性	緑薬 膿剤 菌耐 感 性 感 染 症	
千種	8	0	0	2				10
東								
北	16	4	5	5	0	0	0	30
西	1	2	3	0				6
中村	5	4	0	5				14
中	54	22	27	34				137
昭和	9	2	5	6	5	0	0	27
瑞穂	3	1	0	1				5
熱田								
中川	11	3	5	12	3	0	0	34
港	6	3	2	1				12
南	0	0	0	0				0
守山								
緑	13	0	0	3				16
名東	0	0	0	1				1
天白	0	2	0	0				2
合計	126	43	47	70	8	0	0	294
前月	152	73	62	66	13	0	0	366
前月比	0.83	0.59	0.76	1.06	0.62	-	-	0.80
昨年同月	98	61	25	41	9	0	0	234

注  は、報告する医療機関がないことを表す。

10月分患者報告数	
週報分	3,496
月報分	294
合 計	3,790

令和6年 10 月の一～三類感染症発生状況

(診断日で集計)

	疾 病 名	令和6年 10 月 患 者 数	令和6年計 患 者 数	令和5年計 患 者 数	令和4年計 患 者 数
一類感染症	エボラ出血熱	-	-	-	-
	クリミア・コンゴ出血熱	-	-	-	-
	痘そう	-	-	-	-
	南米出血熱	-	-	-	-
	ペスト	-	-	-	-
	マールブルグ病	-	-	-	-
	ラッサ熱	-	-	-	-
二類感染症	急性灰白髄炎	-	-	-	-
	結核	次ページ参照			
	ジフテリア	-	-	-	-
	重症急性呼吸器症候群 (病原体がベータコロナウイルス属SA RSコロナウイルスであるものに限る。)	-	-	-	-
	中東呼吸器症候群 (病原体がベータコロナウイルス属ME RSコロナウイルスであるものに限る。)	-	-	-	-
	鳥インフルエンザ (H5N1)	-	-	-	-
	鳥インフルエンザ (H7N9)	-	-	-	-
三類感染症	コレラ	-	-	-	-
	細菌性赤痢	-	-	-	-
	腸管出血性大腸菌感染症	11 (7)	42 (12)	62 (13)	30 (2)
	腸チフス	-	-	-	-
	パラチフス	-	1	2 (1)	-
	合 計	11 (7)	43 (12)	64 (14)	30 (2)

注1 一～三類感染症を診断した場合は直ちに届出が必要。

注2 ()内は無症状病原体保有者の再掲。以下同じ。

腸管出血性大腸菌感染症の内訳

菌 型	令和6年 10 月 患 者 数	令和6年計 患 者 数	令和5年計 患 者 数	令和4年計 患 者 数
O157	5 (3)	25 (5)	48 (6)	20 (2)
O26	1 (1)	5 (3)	4	5
O103	-	3	-	-
O111	1	1	-	-
O165	1	1	-	-
その他	-	2 (1)	1 (1)	-
型 不 明	3 (3)	5 (3)	9 (6)	1
合 計	11 (7)	42 (12)	62 (13)	30 (2)

注 過去3年に報告のあった菌型のみを記載。

結核 新登録患者発生状況（月報）

10月

保健センター名	令和6年10月（※）			令和6年計（※）			令和5年計			令和4年計		
	活動性結核		(別掲) 無症状病原体 保有者	活動性結核		(別掲) 無症状病原体 保有者	活動性結核		(別掲) 無症状病原体 保有者	活動性結核		(別掲) 無症状病原体 保有者
	総数	うち喀痰塗抹 検査陽性者数		総数	うち喀痰塗抹 検査陽性者数		総数	うち喀痰塗抹 検査陽性者数		総数	うち喀痰塗抹 検査陽性者数	
千種	0	0	0	11	3	0	21	10	5	18	3	11
東	1	1	1	9	5	2	4	1	6	13	5	4
北	2	1	0	19	9	6	18	8	14	26	15	5
西	0	0	0	8	3	9	12	5	11	15	6	8
中村	1	1	0	16	2	6	21	4	10	26	13	8
中	1	1	0	15	6	6	21	9	12	9	3	8
昭和	2	0	0	19	5	2	13	2	6	9	2	5
瑞穂	1	1	0	6	1	2	8	2	3	14	7	2
熱田	0	0	0	7	2	2	3	1	4	9	1	5
中川	0	0	0	15	7	12	31	8	20	24	9	12
港	3	1	1	16	4	6	23	5	10	26	5	11
南	1	1	0	15	5	6	18	7	12	24	9	9
守山	2	1	0	25	11	5	21	12	11	18	10	6
緑	0	0	1	18	6	8	19	5	18	21	8	9
名東	1	0	1	8	4	4	10	4	7	16	6	10
天白	1	0	1	10	4	3	19	8	5	15	2	7
全市	16	8	5	217	77	79	262	91	154	283	104	120

※令和6年の数値は速報値です。

四類感染症（44疾病）

（診断日で集計）

疾 病 名	令和6年10月		令和6年計	令和5年計	令和4年計
	患 者 数	備 考	患 者 数	患 者 数	患 者 数
E型肝炎	－		4	5	1
A型肝炎	1		1	1	1
エムボックス	－		1	3	－
ジカウイルス感染症	1		3	－	－
重症熱性血小板減少症候群※	－		－	－	1
チクングニア熱	－		1	－	－
つつが虫病	－		－	1	3
デング熱	－		3	6	2
日本紅斑熱	1		3	1	－
マラリア	－		1	1	3
類鼻疽	－		－	－	1
レジオネラ症	9		40	32	47
レプトスピラ症	－		－	1	－
合 計	12		57	51	59

※ 病原体がフレボウイルス属SFTSウイルスであるものに限る。

注1 四類感染症を診断した場合は直ちに届出が必要。

注2 44疾病のうち、過去3年に報告のあった疾病のみを記載。

五類感染症全数把握（24疾病）

（診断日で集計）

疾 病 名	令和6年10月		令和6年計	令和5年計	令和4年計
	患 者 数	備 考	患 者 数	患 者 数	患 者 数
アメーバ赤痢	4		19	13	12
ウイルス性肝炎 （E型肝炎及びA型肝炎を除く。）	－	－	－	B型： 2	－
		－	－	－	－
		－	その他： 1	その他： 3	－
カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症	7		54	53	62
急性弛緩性麻痺（急性灰白髄炎を除く。）	－		1	－	1
急性脳炎※	1		11	17	3
クロイツフェルト・ヤコブ病	－		－	3	3
劇症型溶血性レンサ球菌感染症	3		42	22	28
後天性免疫不全症候群	3	無症候性キャリア： 1	無症候性キャリア： 33	無症候性キャリア： 55	無症候性キャリア： 39
		AIDS： 2	AIDS： 14	AIDS： 20	AIDS： 16
		－	その他： 1	－	その他： 2
ジアルジア症	－		1	－	－
侵襲性インフルエンザ菌感染症	2		13	14	8
侵襲性髄膜炎菌感染症	－		－	1	1
侵襲性肺炎球菌感染症	4		59	54	36
水痘（患者が入院を要すると認められるものに限る。）	－		9	8	3
梅毒	49	早期顕症梅毒： 37	早期顕症梅毒： 253	早期顕症梅毒： 333	早期顕症梅毒： 296
		－	晩期顕症梅毒： 7	晩期顕症梅毒： 4	晩期顕症梅毒： 5
		－	－	先天梅毒： 5	－
		無症候梅毒： 12	無症候梅毒： 115	無症候梅毒： 126	無症候梅毒： 108
播種性クリプトコックス症	－		1	1	3
破傷風	－		－	1	1
バンコマイシン耐性腸球菌感染症	－		1	－	－
百日咳	6		21	16	2
麻しん	－		2	－	－
合 計	79		658	751	629

※ ウエストナイル脳炎、西部ウマ脳炎、ダニ媒介脳炎、東部ウマ脳炎、日本脳炎、ペネズエラウマ脳炎及びリフトバレー熱を除く。

注1 五類感染症全数把握（侵襲性髄膜炎菌感染症、麻しん及び風しんを除く）を診断した場合は7日以内に届出が必要。

注2 24疾病のうち、過去3年に報告のあった疾病のみを記載。

感染症の類型及び定義（感染症法）

類型	定義
一類感染症 （7 疾病）	感染力、罹患した場合の重篤性等に基づく総合的な観点からみた危険性が極めて高い感染症
二類感染症 （7 疾病）	感染力、罹患した場合の重篤性等に基づく総合的な観点からみた危険性が高い感染症
三類感染症 （5 疾病）	感染力、罹患した場合の重篤性等に基づく総合的な観点からみた危険性が高くないが、特定の職業への就業によって感染症の集団発生を起し得る感染症
四類感染症 （44 疾病）	人から人への感染はほとんどないが、動物、飲食物等の物件を介して感染するため、動物や物件の消毒、廃棄などの措置が必要となる感染症
五類感染症 （全数：24 疾病） （定点：25 疾病）	国が感染症の発生動向の調査を行い、その結果等に基づいて必要な情報を国民一般や医療関係者に情報提供・公開していくことによって、発生・まん延を防止すべき感染症
新型インフルエンザ等感染症 （4 疾病）	【新型インフルエンザ／新型コロナウイルス感染症】 新たに人から人に伝染する能力を有することとなったウイルスを病原体とするインフルエンザ／コロナウイルス感染症であって、全国的かつ急速なまん延により国民の生命及び健康に重大な影響を与えるおそれがあると認められるもの 【再興型インフルエンザ／再興型コロナウイルス感染症】 かつて世界的規模で流行したインフルエンザ／コロナウイルス感染症であってその後流行することなく長時間が経過しているものが再興したものであって、全国的かつ急速なまん延により国民の生命及び健康に重大な影響を与えるおそれがあると認められるもの
指定感染症	既知の感染症の中で上記一～三類及び新型インフルエンザ等感染症に分類されない感染症において一～三類に準じた対応の必要が生じた感染症（政令で指定）
新感染症	人から人に伝染すると認められる疾病であって、既知の感染症と症状等が明らかに異なり、その伝染力及び罹患した場合の重篤度から判断した危険性が極めて高い感染症

（令和 6 年 10 月 31 日時点）